くにみ

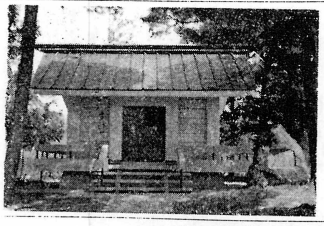
【才80号】
昭和39年5月15日発行
非売品
発行所　国見町公民館
発行人　佐藤善次郎
編集人　鈴木美一
印刷所　宇佐美印刷所

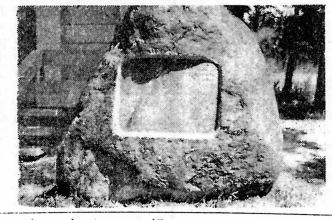
“とわにやすかれ”と
忠霊殿みごと完成

日清戦争から太平洋戦争までに、国のため命を捧げた町出身者は四百六十余、殊に今次大戦は、有史以来その様相が苛烈であったため、万里の異境に多数の犠牲者を出し、しかも敗戦のうきめを見てしまったことは痛恨のきわみであった。しかし、終戦以来すでに二十年、国の平和と繁栄をとりもどし、安泰な生活ができるようになった今日、これら英霊が国に殉じた崇高な情を忘れてはならない。国見町遺族会、生存旧軍人及び町内有志たちは、この尊い犠牲者の霊を慰め、心から敬仰の誠を捧げたいとの切なる心情から忠霊殿建設を提唱したのであったが、その悲願はみごと達成された。

小雨けぶる四月二十一日、入魂の儀を執行、更に英霊は藤田小学校体育館に移されて合同慰霊祭並に忠霊殿落成記念式が行われた。

尚この歴史的大事業完成に当り、軍恩連（軍人恩給受給者連盟）では、大陸の広野に、太平洋の彼方に、大空の果てに、共に戦い、共に苦しみ、そして護国の鬼と化した戦友を偲び、巨大な自然石に「国のため華と散りにし戦友の芳る勲はいつの世までも」の和歌を彫んで殿前に供えた。又悲願達成をよろこび合同慰霊祭並に落成式を記念するため陸上自衛隊よりヘリコプターを招いて町民に見学させたり軍楽隊をよんで霊前や街頭で記念演奏をしてもらうなど、亡き戦友を偲ぶにふさわしいものであった。次にこの事業に建設委員、専門委員として終始尽力した曳地一氏の建設日記の一部をお借りし、この大事業の経過をうかがい、関係者への感謝の意を表したい。





【写真】
（上）藤田小体育館に於ける慰霊祭
（中）完成した忠霊殿
（下）記念の歌碑

建設日誌（抜すい）

三七、二二、二四　建設懇談会を開き次のことを協議
1、建碑の趣旨
2、発起人会の構成員
3、建碑の様式場所経費等
4、浄財の募集
5、建碑の時期
三八、三、三五　専門委員会を開き次のことを協議
1、建碑の様式
2、募金の方法として遺族会一〇万、一般五〇万、町六〇万、計一二〇万
3、建設予定　秋の彼岸
専門委員の構成は遺族会二部落長会一、戦友会二、議会一、公民館一、事務局一の計八名
同六、二四　専門委員視察、梁川、保原、伏黒、柱沢、月館、岡部等を視察
同七、四　専門委員会を開き様式を忠霊殿とする
同一一、二　専門委員会を開き募金方法について協議
同一一、二七　忠霊殿建設委員会を開き次のことを協議
1、趣意書について
2、共催団体代表について
3、扉の紋章について
4、忠霊殿の文字について
5、施工者選定について
6、募金方法及び特志寄付について
同一二、二一　地鎮祭及び起工式を執行
同一二、二七　着工、勤労奉仕をする。この時記念碑建設の案が出た。
三九、一七　建碑視察員決定
同一、一三　荒井方面荒川で石を探がす　一〇名出動
同一、二四　建設省伏黒出張所長の検分を受ける、七名出動
同三、四　積雪状態調査のため二名出張
同三、六　除雪作業二五名出動
同三、八　運搬作業三〇名、境内作業一二名出動
同三、九　建設現場まで引上げ、三〇名出動
同三、一六　専門委員会
1、工事の変更について
2、完成期日及び除幕式の期日について
同三、二九　記念石の基礎コンクリート打込み一〇名出動
同四、一一　専門委員会
1、寄付収納状況について
2、会場、式次才、役割、記念品等の配付方その他
同四、一七　記念石建立完成和歌彫り付け
同四、一九　ヘリコプター招待、見学
同四、二一　落成式並に合同慰霊祭

千手観音さまになりたい
—部落長の録音公開—

某日、某所で顔を合わせた部落長さん二人のお話し、こっそりテープに収めておいたのをお叱り受けるのを覚悟で公開いたします。（責任者鈴木主事）

A「一体おれたち部落長の仕事っていうのは何何なんだろう」
B「それはもちろん町の公務員だよ、役場の末端機関として用達しをする役目がある」
C「それにしてはあまり仕事が多すぎないかなアー、午前にきた回覧を配って帰って見るとまた何かの調査依頼がきているというようなことがなんべんかある。あれ、なんとかならぬものかなアー」
A「役場からの仕事だけならしかたないとあきらめもするが、他の団体や機関からも時どきたのまれる」
B「時どきならよいが、あっちからも、こっちからも、たのむ方は一つでも受ける方はたいへんだよ」
C「そうだ。農協や共済組合養蚕組合その他の組合からもくるし、学校や警察や郵便局からも……」
A「公民館や消防からも…」
B「婦人会や青年会の用もたのまれる部落長がある」
C「神社やお寺の用達しはしかたあめナー」
A「氏子総代や檀徒総代がやっているところが多いだろうシ」
B「近頃、物売りの宣伝や観光旅行の募集にも応接している部落長がある」
C「これでは、働き盛りの若い者や働かねば食えぬ貧乏人ではとても部落長はつとまらぬ」
A「ひまとてまのあるおいんきょさまでもなれば」
B「それに頑丈な体力がいるし、あたまがなくてはかなわない」
C「千手観音さまがうらやましいナー」
A「それで年俸〇〇〇〇円、お金もあってではとても…」
B「みんなで今はやりのストでもおこすか…」
C「いや、やっぱり首が惜しいよ、知事に出る予備試験だと思って大いにやるサ」
A「いや、そんな野心はおこすまいぞ、千手観音さまはおなさけ深い。衆生のためにわが身を捨てたみほとけさまの気持ちで大いにやろう」

ぼくのゆめ
三十年後の国見町（三）

宍戸　惣兵工

更に養蚕地帯に行くと、ここは完全協業で、大きな飼育所があり、四今からは桑育で一手に引きうけ、共同購入で、桑の枝条刈り取り機で切られた条桑を、トレーラーに積んで運んでくる。給桑は朝と夕方の二回、上簇は自然上簇で、上簇室には、加湿冷暖房装置のルームクーラーが備えつけられてある。品種改良によって、色質の多糸量系、病気にも強い蚕種がつくられ、蚕作も安定した。

こうして、総てにわたって機械化され、省力化されたので、余剰労力は温室やガラスハウスを利用して、花や高級野菜を作ったり、或いは養鶏養豚の多頭飼育等に向けられて、収入もグンと多くなり、農業所得も年間二百万から三百万と宿願の一万ドル農業にあと一息とせまった。農産物ことあるごとに、計画出荷と、生産コストの低下により、貿易自由化になった今日でも、充分外国農産物と対抗できるようになった。家畜の飼料工場で一手に引きうけ、共同購入で格安に農家の軒下にとどけられる。

次に農家の生活面をのぞいてみよう。都市計画に基づいて建てられた赤い屋根に白い壁のモダンな住宅が、緑の芝生に泉水があしらわれて、落ちついた雰囲気をかもし出し気にも強い蚕種がつくられ、みな、同じような豊かな生活をしている。中に入ってみると、日当たりのよい南向きの居間には、豪華なじゅうたんが敷かれ、深々としたソファーが置いてある。カラーテレビやステレオが整然と並び、あらゆる電気製品が備えられて、農家の足は乗用車に変わった。生活で一番変わったのは、仕事と生活が完全に分離したことである。サラリーマンのように主人は作業のため農事組合に出勤、労働時間は八時間、家には婦人と子供、それに別棟におじいちゃん、おばあちゃんが留守番。だから嫁と姑の問題とか嫁の来てがない、などとは全然耳にしない。生活程度が都市と農村が肩を並べた今日、むしろ環境のよい農村地帯に嫁に行きたいといっているほどである。

食生活の面も大きく変った。おいしくて安い貯蔵加工食品が豊富に出まわり、乳製品や肉類、鶏卵、果物が都市では味わえぬ新鮮さで食膳をにぎわす。牛乳やコーヒーがお茶がわりに飲まされる。そして家事専門の奥さんが、料理店そこのけのおいしいごちそうをサービスする。おかげで農村病といわれた高血圧や胃病は追放され、体位も向上し、寿命も伸びて七十、八十の老人が元気に家畜の世話をしているなどざらである。

週に一度の農休日には、家族そろって自家用車に乗り、ドライブや温泉旅行にでかける。このように農村は、三十年前とは月とスッポンほどにかわった。この発展のかげには若い情熱とたくましい力をもって、新農村建設のために活躍した当時の建設班の、涙ぐましい努力があったことを忘れてはならない。

今日も又、ヘリコプターと大型機械の爆音の彼方に、安達太良、吾妻、霊山の山々と阿武隈川の白い流れだけが昔とかわらず、静かなただずまいを残しているのである。

【終りにのぞんで】
これで「ぼくのゆめ」は終りました。まだまだ、見足りないところがたくさんありますが、あとに続く同志のひとたちにおぎなってもらうことにしましょう。

国見町部落会長名簿

◎会長○副会長□会計△理事　昭39.4.1現在

部落会名	班数	世帯数	部落会長
南北町	6	86	繁郎
町前町	10	94	蔵郎
大町	9	82	蔵一
大本	7	98	蔵一
駅錦	7	78	由吾
宮町	11	127	助郎
宮町	7	101	治道
鶏石	4	44	吉郎
〃母田	2	16	雄蔵
〃	3	32	△佐郎
〃	3	23	△佐平
〃	3	29	三
〃	4	33	儀
滝	4	44	常五
山	3	40	幸
山	3	46	△佐
小	5	68	吉
崎南	91	1.041	17
崎	5	55	野
崎	6	44	村
計	6	46	安
橋	4	56	△佐
田川	5	54	佐
坂	3	29	遠
取	7	49	菅
西	7	44	菅
原	8	49	佐
山	5	38	□佐
北	53	456	10
中	10	61	△津
下	5	37	佐
計	4	40	蓬
1	7	46	吉
2	8	58	佐
3	3	30	佐
4	6	43	佐
5	6	55	△村
6	4	23	△高
7	4	21	△高
8	5	53	佐
9	62	467	11
10	9	118	△斎
11	9	67	佐
12	6	59	八
計	7	71	△松
田	6	59	○遠
寺	34	372	5
城	4	31	△佐
戸	3	15	△中
根	7	70	△斎
計	2	24	板
館	4	34	玉
内	3	19	△佐
柳	23	193	6
部			
計			

総計　部落数 49　班数 263　世帯数2.529
回覧総数 312

◎困りごと……願いごと……相談ごと……は役場の住民室にお申出で下さい

◎県民の幸福と治安を守る……誇り高き警察官になりましょう……くわしくは駐在所でおきき下さい

巡回映画

こんばんは……みなさん

毎月きまつた日まいります

近頃、どこの家にもテレビが備えられ、家内そろって楽しく見ています。至れり尽せりの番組表、自由自在に廻せるダイヤル、ほんとに便利な世の中になったものです。毎日毎晩、坐ったままで、なん時間でも見続けられる、前には経験できなかった家族のだんらんもこんどこそは実現できるわけです。しかし、それでいて、何か心の底に一抹のさびしさ、物たりなさを感ずることがありませんか。そうです。それは、テレビが私たちをひとりぼっちにしているのです。家内中みんな一しょに見ていてもこれでは、心がてんでんばらばらなのです。時たまよその人がまざって見るときはどうでしょう、家族だけで見るときがつた楽しみがわくでしょう。人間は社会的動物といわれるくらいで、自分一人で自由きままにくらすより多くの仲間と一しょに、共に見たり、聞いたり、語ったりするところにほんとうの楽しみがあり、生き甲斐を感ずるものです。

近頃、部落映画会をぜひやってくれとの声が、多くの人から出てきました。テレビにくわれて映画など見るものがないというので、一時巡回を止めていましたが、やっぱり月一回の顔合わせをしたい、話し合いの場がほしいとの要望が強く出てきたので、関係の方がたのご協力を仰ぎ、定期的に各部落で開くことに致しました。次の要項によって今月から実施しますのでどうぞふるってご利用ください。

◎時と所…別表のように毎月8日と場所を一定しておきます。別に連絡がなくとも、その日にはその部落で実施するわけです。

◎プログラム…県から常時二〇本の社会教育映画が来ていますので、その中からその月、その会場のテーマにふさわしいフイルムを選びます。

◎係員…機械の運搬、操作、会場準備、司会などの係りは一さい受持ちを定めてあります。但し、皆さまのお手伝いはありがたくお受けします。

◎お客さまは町民の皆さまです。特に婦人、青年、壮年のPTA（両親）老人など、あらゆるグループ、階層の方々それぞれの、話し合いの場として充分ご利用ください。

巡回映画日割

日	会場	日	会場
8	前田	9	内谷東
10	内谷西	11	鳥取
12	小坂小	13	泉田中
14	泉田下	15	山崎
16	石母田	17	大木戸小
18	貝田	19	光明寺
20	高城	21	大木戸
22	川内	23	大枝
24	旭	25	森北
26	神明	27	森西
28	徳北	29	徳南
30	塚野目	1	大町南
2	研修所		

中央市場で立往生

建設班の修学旅行（下）

—第三日—

昨夜はよくねむったのでみんな目覚めが早い。午前七時三〇人乗りのマイクロバスが迎えにふろ。築地に近づくにぞいずんず車の数を増し、市場入口で完全にストップ、車を降りていよいよ見学、これから先は混雑を見越して単独行動の指令がくだる。まず魚市場を見ようとしたがたちまち車に取り巻かれて、ニッチもサッチもきかなくなる。これ以上深入りすることは危険でもあるので、青果物市場に向って転進する。こちらはいくぶん静かであるが、見渡す限りの野菜や果物の山山、無料休憩所で昼食と田舎者にしてはなかなか抜け目がないところをご披露におよぶ。

次はNHK中央放送局だ。車を引返して神宮外苑の競技場を見る。秋のオリンピックを目ざして今突貫工事中、九分通り完成している。

国会議事堂では、亀岡代議士の秘書武藤氏の案内で議場など見学、亀岡さんも多忙の中を割いてはげましにきてくださる。

東京タワーは下から見上げるものとばかり思っていた（人もあった）が今回は百二十メートルの展望台に昇り思う存分四方八方を眺めることができた。テレビ室やいろいろの参考館を見学、娯楽室では無限の天真らんぷりを発揮、無料休憩所で昼食と田舎者にしてはなかなか抜け目がないところをご披露におよぶ。

次はNHK中央放送局だ。おなじみのラジオやテレビのスタジオやセットを見せられおかしいやら感心するやら。

こうしてわれわれの旅行の最後を飾る都内見学も無事終り、上野駅へ着いたのが午後二時半、三日間に亘る研修旅行、それはなんと収穫の豊かな旅であったろう。しかもそれは、農村建設班の宿泊訓練を仕上げるためのものであると共に建設班に果せられた将来への任務の首途でもある。

午後三時発の急行「八甲田」は座席もゆるく、すこぶる快適、天候にはめぐまれ、あまたの人びとの善意に支えられたこの研修旅行の効果を喜び合いながら、一路わがふるさとに向つた。

婦人団体と私たち

—一婦人—

こんな姿でよいのかしら？婦人会と婦人学級、婦人会と農協婦人部と見るからにいやらしい対立的な姿。婦人会はなんといっても古い伝統と歴史をもつ婦人団体であり、地域にとってなくてはならぬ組織であるはずだ。それが聞くところによれば解散して婦人学級一本建てにしたとか、農協婦人部で代行することになったとか、なんとなげかわしいことではないでしょうか。

婦人会は奉仕活動を中心とする教養団体であり、農協婦人部は農協に付属する経済団体であるし、婦人学級は一般婦人の教養の場であるということの先生方からお聞きしています。とすれば、それぞれの団体に果さねばならぬ使命と目的があるはずです。そこにはきっとかわいがりが愛の精神をもあると思います。婦人会はどこまでも婦人団体の元祖なのであり、婦人学級や農協婦人部はその後に芽生えた新しい組織であり、いわば婦人会の生んだ子どものようなものではないでしょうか。家庭に例えれば母であり、姑である婦人会が、子であり嫁である農協婦人部や婦人学級をもっとかわいがり、育てていくのが当然ではないでしょうか。母は娘を育て、娘は母を敬慕する。姑は嫁をかわいがり、嫁は姑をいたわりつつ、お互に相手の気持ちになって理解し協力してその目的と希望の為に進んで行ったならば、現状のようなみにくい姿になるはずがあるでしょう。姑にかわいがられていやな気持ちのする嫁はいない……姑であるべき婦人会は婦人学級をもっともっと導いてくれたならば、婦人学級生だって喜んで積極的に協力し、他町村には見られぬ美しい姿で両立し得る模範的な婦人団体としてあゆみゆくことができるのではないでしょうか。

婦人学級ではいろいろ新しいことを勉強します。その中には、もちろん家庭や社会の人間関係のことや民主団体のあり方などについても話し合うことでしょう。それはやがて自分が家庭の主婦となり、社会団体の主体者になった場合の準備のためで、育ちゆく子どものことを考えるとそれは母として当然の要求であり、立派な心構えであると思われます。それを勉強したからといってすぐなまいきだとか、出過ぎた嫁だというのでは、あまりにも狭量であり、女の立派な心構えであるとは思われないでしょう。娘たちはほんとうは母を敬し、母を愛していています。それでいて、年ごろになればいろいろと反抗します。「一人の母の記録」という映画を見ましたときに、おばあさんはその内容を全面的にみとめ、親しみを感じ、わが意を得たりと喜んでいる。お母さんはいろいろ矛盾は感じているがどうともならぬとあきらめてしまう。娘はあくまでこれを批判し、反抗し、改革を叫んでいます。若妻たちの場合は、この娘と母の中間であり、両方の気持ちになるでしょう。その気持ち抑えることなく、よくこれを聞いてやり、助言してやり、協力してやる態度があってこそよい母であり、立派な先輩といえると思います。今叫ばれている話し合い学習でも開いて、お互に腹をわって話し合えば、この社会をまるく納め、住みよい社会ができると思います。かどがあってはならぬ社会、そして明るい社会にしなければなんといっても私たちの住みよい社会を作ろうではありませんか、お互いに和と愛の精神をもって……。

「財宝も地位も愛に比すれば塵埃の如し」

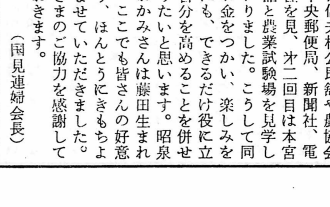
婦人の教養が必要だと思います。その教養を活かして、果すべき役割を全うすることがこれからの大切な任務であろう。

役に立つ見学を……

村上トク

五月八日、私たち連婦の一行四五名は、才三回社会見学として、福島方面に行き、裁判所や福島テレビを見学してまいりました。

裁判所では、いろいろのテキストをいただき、映画を使って話をきき、公判廷も見せていただきました。福島テレビは、福島保健所の隣、昨年四月開局されたばかりのデラックスな建物です。



ここでも、放送事業についてのお話や機械室の見学などいつまで居ても時間がたりないほどの勉強をしました。どこに行っても係りの方が親切に教えてくださるのでみんな大喜びでした。帰途飯坂町の昭泉閣で一休み、ほこりと汗を洗いおとし、大広間では自己紹介や見学の反省をしました。各地区とも大分新顔が見え、今日の研修はよくもあるべきであったようです。近頃は旅行ブームで、各団体きそって旅行に出かけるようですが、その大部分は慰安と観光が目的のようです。バスにすわったまま観光地や温泉をめぐり、飲んだり歌ったり、踊ってあるくまことにおもしろいものです。しかしわたくしたち婦人会は教養団体として、子供や孫たちとお話のできる婦人になるためには、ただおもしろいだけでなく、もっと世の中のことを広く知る必要があると思います。昨年は才一回目信夫村公民館や農協会館、中央郵便局、新聞社、電電公社を見、才二回目は本宮公民館と農業試験場を見学してまいりました。こうして同じくお金をつかい、楽しみをするにも、できるだけ役に立ち、自分を高めることを併せてやりたいと思います。昭泉閣のおかみさんは藤田生まれの方、ここでも皆さんの好意により、ほんとうにきもちよく休ませていただきました。皆さまのご協力を感謝して筆をおきます。

（国見連婦会長）

卒業証書のない卒業式

デンマーク便り（第16信）

お便りと公民館報ありがとうございました。ちょうど昨夜ドイツ、スイスの旅行を終えて学校に帰えり受取りました。

二十五日、五か月コースの終業式を終えました。デンマークでは、農学校や家政学校の終業式卒業式といっても、卒業証書があるわけでなし、まして賞状なども大分よくなってきたのもありません。卒業したからといって資格その他一切なく自分の働いた金で自らなく自分の働いた金で自ら学び、学校を出たからといって偉くもない、自分の為に、生活に役立てる為に学校に入るのです。高校出、大学出と、一つの条件や資格を得る為に進学する日本とは根本的に違うようです。

私たちはまずベルリンに行き、次にニューンボルグ・マインツエン、スイスのチューリッヒ・バッセルをめぐり、フリボルグで友人に合い農家や農協を見学、ハイデルブルグ・フランクフルト・マインツを見、ライン河を船で下りながら流城の数々進み、農村も急速に変りつつあると共に生活水準の高まりつつあることを見てボンまで行き、ケルン・ハンブルグというコースで旅行したのです。

ドイツ人は特に日本人に親しみをもって接してくれ、ほんとうに楽しい旅でした。ドイツの生んだ世界的偉人、ゲーテ・カント・ベートーベン・メンデルスゾーン・ブラームスなどの生家や博物館を訪れてみましたが、見学者の多いのには驚きました。それからドイツを旅して強く感じたことは、各町に今尚残る才二次大戦の砲弾や爆撃の跡です。同じ敗戦国とはいえ、日本のどこにこんなものが見られるでしょうか。

特に二つに分かれたベルリンは私たちの胸をはげしくひきしめるものがありました。町が東と西に分けられ、道路一つ家一つが国境線で発見され殺された人びとの花輪がいたるところにあります。私たちは道をまちがえて三時間ほど東ベルリン地内を歩き廻りましたが、町の到る処に終戦そのままの姿でくずれたビルデングや、銃砲弾の跡が見られ、西ドイツに比べ、その復興が非常に遅れています。

観光船によるライン下りはすばらしい風景でした。急斜面を利用したブドウ園山頂に立つ古城など絵を見るような美しさ、山一つないデンマーク人の素朴さ、親切さが他国に見られないものがあると共に、この土地が才二の故郷になりつつあることを物語っている証拠と思われます。

学校に帰ってみたら日本農友会から正式な帰国命令が届いていました。六月七日横浜着の船で来いというのです。三月下旬、乳牛経済検定工（コントロールアシスタンス）の国家試験を受け合格しました。校長はじめ諸先生方も非常に喜んでくれました。

四月は二十日頃まで学校に滞在、先生の車で国内のモデル農家や試験場などを見学させてもらいます。二十日から十五日間オランダ・スイス・イタリヤの農業を見、フランスのマルセーユから船出します。

観月台や半田沼の桜を思い浮かべながらペンをおきます。

四月三日

ワイレにて八島博正

編集後記

◎前古未聞の大凍霜害、心からお見舞申上げます。経済的な対策は政治面からお願いするとして、精神面の対策も万全を期したいものです。

◎若人のゆめははてしなく拡がる。老人は過去に生き、壮年は現在に生きるというから「ゆめ」大いに結構。

◎みんなで話し合いましょうせめて月に一度ぐらいはネ